

## エクアドルにおける問題点と要望

区分	意見元	No	問題点	問題点内容	要望	準拠法
9 輸出入規制・関税・通関規制	日機輸	(1)	追加関税措置(セーフガード)	<p>・2015年3月より設定されているセーフガード(Salvaguarda)税は時限立法であり、4-6月で段階的に削減されるも、現在も継続施行。引き続き国内産業保護と輸入削減による外貨流出防止が図られる。引き続き自由競争への影響が懸念される。</p> <p>(変更)</p> <p>(対応)</p> <p>・2016年1月21日、貿易委員会(COMEX)は2016年決議001号を採択し、2015年3月11日から実施されている国際収支防衛のための一時的輸入制限措置(セーフガード)である追加関税措置の変更を決定し、1月31日に適用した。追加関税は品目別に5%、15%、25%、45%の4種類のうち、今回は45%が適用されている品目の追加関税率を40%に引き下げる。</p>	<p>・実質、輸入規制であり、INEN規制の早期緩和、撤廃を求める。</p>	
				<p>・2013年、従来認められていた送信モジュールでの認証が突然認められなくなり、新たに最終製品での試験に基づくセットモデル認証が要求されることとなった。急な運用変更のため、サンプルの手配が困難。また、試験方法等がはっきりと決まっていない、現地試験所のキャパシティ不足による認証取得の長期化が予想される等、今後、輸入に支障が出る恐れがある。</p> <p>(継続)</p>	<p>・業界との定期的な情報・意見交換に基づく透明性が高く、無理のない規制の実施をお願いしたい。</p>	
19 工業規格、基準安全認証	日機輸	(2)	認証取得における不合理なテストレポート要求	<p>・プリンタ規制(RTE INEN 202)、外部電源規制(RTE INEN 167)では認証取得が要求されており、申請の際に発行から12カ月以内のテストレポートの提出が要求されている。</p> <p>認証の有効期間が一年であることから、実質毎年一回は認定試験所の試験を受ける必要があり、企業にとっては費用面での負担が非常に大きい。国際的には発行から3年以内のテストレポートを認めるのが通例である。</p> <p>(継続)</p>	<p>・発行から3年以内のテストレポートであればよい様に改正頂きたい。</p>	<p>・REGLAMENTO TÉCNICO ECUATORIANO RTE INEN 202</p> <p>・REGLAMENTO TÉCNICO ECUATORIANO RTE INEN 167</p>
	日機輸	(1)	省エネ規則の恣意的拡大	<p>・2013年6月発令の新省エネ規制INENは当初のエアコン、冷蔵庫から対象範囲を次々と拡大し、現在、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、管球、レンジ、テレビ、アイロン、掃除機と電気製品全般に省エネ規制を拡大。INENが認める第三者実験機関のテストデータが引き続き必要で費用、時間が嵩む事態となっている。エクアドルブランドであるInduramaなど国内産業育成による貿易収支の改善が背景にあると考えられ、自由な競争環境を阻害している。</p> <p>(一部削除、要望変更)</p>	<p>・部分緩和も実質、輸入規制であり、INEN規制の早期緩和、撤廃を求める。</p>	
22 環境問題・廃棄物処理問題	日機輸	(2)	リサイクルに関する規制(廃充電池の回収義務)	<p>・充電池(一次電池は対象外)に関して輸入額に特定比率を掛け合わせた金額を輸入者が回収義務を負う規制を発行。拐取箱の設置や消費者意識の啓蒙などのコストが利益圧迫。</p> <p>(継続)</p>	<p>・リサイクル規制の撤廃あるいは目標率の緩和。</p>	